



NPO法人暴力防止情報スペース・APIS (アピス)

「不思議な記憶」

あれは一体何だったのだろう。
どこかで見たことがあるような、ないような
記憶の片隅にある、そんな風景を思い出すたび
不思議な感覚にとらわれ、深い愛着と切なさに
抱き込まれます。

あれが一体何だったのかはわからなくても
それがあることで『曖昧』という不確かな確かさを
手に入れました。

目に見えるものだけが世界の全てではないという
自分の心の中に浮かぶ考えを
スケッチするようにシャッターを押しました。



写真展ステイトメント (4ページ本文参照)

2015/11/24～30

Index

とびらの詩 (野中ひとみ) 1

巻頭言 (鈴木登喜子) 2

APIS 報告 今を生きるということ (後藤真幸) 3

APIS 報告 大阪ダルク・Freedom 感謝祭(橋本玲子) 3

会員からの報告 写真の個展をしました (野中ひとみ) 4

映画の紹介「母と暮せば」(大麻淑子) 5

ザ・プレゼンテーション

The Presentation “APIS” (横山恵子) 6

APIS 報告 電話相談養成講座に参加して (山田悦子) 7

APIS 報告「ハウスコールサポーター (House Call Supporter) 養成講座」を受講して(朴 宗荀) 7

活動記録 8



- 今を生きるということ- 韃幼稚園大人ワークショップで感じたこと



12月18日、韃幼稚園でCAP大人ワークショップを行いました。
朝から保護者の方たちが、熱心に参加して下さいました。

スピーカーの話の中で私が改めて感じたことがありました。
それは、私たち大人は、子どもたちの未来のために色々な事を経験させようと、ややもすればそのことにばかり執着してしまうが、子どもが今を幸せに生きているかにも心を配らなければならないということです。

命あるものはみな、大人子どもに関係なく、明日が必ずあるとはいえません。その当たり前のことに、ハッとさせられました。

そして、子どもたちが大切にされ幸せであるためには、大人自身もまわりの人たちに大切な存在だと認めてもらわなければなりません。

二人一組のワークで、お互いに「私は～ちゃんにとって大切な人間です」「その通り。あなたは～ちゃんにとって大切な人間です」と言い合う時間がありました。私の相手の保護者さんが「そんなこと初めて言ってもらいました」と言われたことが印象に残っています。

気恥ずかしいけど大切なことだと、心がまっことしたワークショップでした。
(後藤真幸)



大阪ダルク・Freedom 感謝祭

日時：2015年12月6日17:00～20:00

場所：日本聖公会 大阪城南キリスト教会



大阪ダルク FREEDOM (薬物依存回復支援) 感謝祭に、今回初参加させていただきました。
会場に到着すると、既に大勢の参加者の方が来られていて、テーブルには盛り沢山の手作りのお料理と飲み物が用意されていました。和気あいあいと感謝祭は進行していき、少し緊張気味の私も、すぐにその雰囲気になじむことができました。

進行中に語られた当事者や支援者・家族の方の過去・現在・未来へのメッセージは、それぞれに思いや立場が異なっても心に深く刻まれました。誰もが陥るかもしれないアディクション(依存症)。何度も繰り返される負のスパイラルを断ち切るためには人との繋がりがであったり、未来を描くことであったり、今を乗り越えることであったり…そしてそれを語ること、聴くこと、気付くこと、共感することの大切さを改めて思いました。

このような機会を作って頂きありがとうございました。

(橋本玲子)

